



再エネ100宣言 RE Action

三光グループでは、グループ5社と協調して「環境・エネルギー総合事業グループ」を目指しております。「RE Action」への参加により、2050年までにグループ全体で省電力化への取組や、再エネ由来の調達手段の模索、検討のうえ、脱炭素に向けた取組を順次実行していきます。



ミ光ホールディングス株式会社

グループの経営戦略策定及び経営管理



総合環境事業



石油輸送・販売事業



建設コンサルタント



土木建築
運送
解体
産業廃棄物処理事業



障がい者福祉サービス
産業廃棄物処理業

SANKO

TEL 0859-44-5367

FAX 0859-42-3864

〒684-0034 鳥取県境港市昭和町5番地17

<https://sankokk-net.co.jp>

会社概要

商 号	三光株式会社
代 表 者	三輪 昌輝
設 立	1979年9月
資 本 金	4,800万円
従 業 員	344名(2025年11月1日現在)

エコで未来を創造する。

SANKO

Creating The Future with Eco



I want to keep looking for the "can do" until the end. —

最後まで「できる」を探し続けたい。

年間処理数量

180,043t/年
(2024年4月～2025年3月実績)

Jクレジット残高

2,085t-co₂
(2025年11月現在)

ecoで未来を創造する

三光株式会社は、2022年7月にとっとりSDGs企業認証の認証企業となりました。また、当社は近隣地方公共団体と「緊急事態発生時・災害時における廃棄物処理に関する協定」を締結する等、地域にとってなくてはならない企業を目指しています。そして、廃棄物処理の枠にとらわれることなく、再エネ100宣言RE Actionや環境教育、地域貢献など、積極的に推進して参ります。

1. 50年の実績と積み上げたノウハウ

創業50年。廃棄物回収ネットワークは全国の35都府県2都市。



■ 本社

〒684-0034 鳥取県境港市昭和町5番地17
TEL 代表 0859-44-5367 FAX 代表 0859-42-3864
営業 0859-42-5533 営業 0859-47-4532

2. 認められた信頼

- 環境大臣認定取得
低濃度PCB無害化処理、全国対応
- ISO14001認証取得認証
- ISO9001(有機溶剤製品の蒸留再生)認証取得
- 安全性優良事業所Gマーク取得
- 固形燃料(RPF)JISマーク取得
- 「優良認定」全国34都府県2都市



3. 様々な廃棄物への対応力

- 处理品目34種
- 中間処理13区分
焼却・油水分離・電気分解・破碎・混練固化・乾燥
炭化・薬剤混合・選別・圧縮・圧縮固化・堆肥化・中和



■ 沖縄営業所

〒901-2103 沖縄県浦添市仲間1-5-7 山内ビル303
TEL 098-988-8610 / FAX 098-988-8444



■ 浜田営業所

〒697-0006 島根県浜田市下府町327-71
TEL 0855-24-1267 / FAX 0855-24-1277



■ 中部営業所

〒476-0002 愛知県東海名和町3丁目73-73
サワハイツ1F
TEL 0859-21-2100 / FAX 0859-47-4531



■ 板橋営業所

〒174-0041 東京都板橋区舟渡1-7-6
TEL 03-5914-0288 / FAX 03-5914-0299



■ 東日本営業部

〒111-0052 東京都台東区柳橋1丁目3-6
VORT浅草橋駅前Ⅲ10階
TEL 03-6263-0480 / FAX 03-6263-0481



■ 安来支店

〒692-0017 島根県安来市下坂田町290-5
(株式会社コーケン内)
TEL 0854-27-7705 / FAX 0854-22-4288



■ 倉吉営業所

〒682-0913 鳥取県倉吉市和田東町146-3
TEL 0858-27-0270 / FAX 0858-24-6020



■ 鳥取支店

〒689-0105 鳥取県鳥取市福部町湯山544-1
TEL 0857-75-2551 / FAX 0857-74-3551



■ 江島工場

〒690-1401 島根県松江市八束町江島1128番地105
TEL 0852-76-3586 / FAX 0852-76-3426



■ 潮見コンビナート (潮見工場7号炉・10号炉)

〒684-0074 鳥取県境港市潮見町1番
TEL 0859-44-5277 / FAX 0859-44-7500



■ 潮見コンビナート (ウェストバイオマス工場)

〒684-0074 鳥取県境港市潮見町2番地2
TEL 0859-21-4860 / FAX 0859-21-4861



■ 昭和工場

〒684-0034 鳥取県境港市昭和町5番地11
TEL 0859-42-6960 / FAX 0859-42-6961

Pride in supporting the environment

廃棄物へのこだわり、 環境を支える誇りがある。

三光株式会社は1979年に石油販売業として設立、麻油を取り扱う事業から廃棄物処理業に参入しました。

その後時代の変化に合わせ、施設・工場を設置・増設するなど、

現在は、企業や工場、店舗、商業施設、病院、自治体などあらゆるフィールドで、事業活動を展開。

廃棄物のコンサル・収集運搬・中間処理をワンストップで行う総合環境事業を軸に

地球環境保全活動と地域貢献活動を通じて、長年培ってきた技術やノウハウを併せ、

最先端の「環境」をデザインする役割を私たち三光株式会社が担っていると考えています。

ECOLOGY DESIGN エコロジーデザイン

4工場すべて一般廃棄物・産業廃棄物に対応可能



■江島工場
「山陰最大規模」の三光グループ基幹工場
複数プラントを有する総合廃棄物処理施設
マテリアル・サーマルリサイクルの組合せで効率的にリサイクル
特長
・固形物(一般廃棄物、産業廃棄物)の焼却を
最も得意とする焼却炉(ストーカ式)
・固形燃料(RPF)製造「中国地方初のJIS認定取得」
・バイオマス燃料(木チップ)製造
・太陽光、蒸気、バイナリー発電
焼却
乾燥
圧縮固化
破碎
選別
圧縮



■潮見コンビナート
(潮見工場7号炉・10号炉)
「山陰最大級」の焼却工場
特別管理産業廃棄物を含むさまざまな廃棄物に対応した
焼却処理施設・サーマルリサイクルによる環境負荷軽減
特長
・含水及び低・高カロリー物を完全燃焼させる
マルチな焼却炉(ロータリーキルン+ストーカ式)
・低濃度PCB廃棄物無害化処理
・引火性麻油等・感染性廃棄物の焼却処理
・フロン類破壊、スプレー缶処理、クローズドシステム
・蒸気発電
焼却
油水分離
電気分解
中和



■潮見コンビナート
(ウェストバイオマス工場)
有機系廃棄物リサイクル工場
汚泥/有機系廃棄物乾燥炭化堆肥化処理施設
特長
・汚泥炭製造・堆肥製造
・陸上養殖・バイオ炭
乾燥
炭化
堆肥化



■昭和工場
廃タイヤ・工業ゴムリサイクル工場
廃タイヤをはじめとするあらゆるゴム製品をリサイクル
処理困難な微粉体廃棄物(廃トナー等)を安全にリサイクル
特長
・ボイラー燃料(タイヤチップ)製造
・粉状廃棄物の混練固化
混練固化
葉剤混合

産業廃棄物
全4工場の
処理品目
燃えがら、汚泥、麻油、廃酸、廃アルカリ、
廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残渣、動物系固形不要物、
ゴムくず、金属くず、ガラスくず等、がれき類、家畜ふん尿、ばいじん、鉛さい

特別管理産業廃棄物
引火性麻油、引火性麻油(有害)、強酸、
強酸(有害)、強アルカリ、強アルカリ(有害)、
感染性廃棄物、燃えがら(有害)、
麻油(有害)、汚泥(有害)、廃酸(有害)、
廃アルカリ(有害)、ばいじん(有害)

各工場の特色を活かし、
多様な廃棄物にワンストップ対応

RECYLE
約80%

※当社基準による循環利用率
循環利用率=再生量(総受入量-減容量-埋立)/排出量(総受入量-減容量)
直近4年間の平均値。

三光
チャレンジ
SDGsへの賛同

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

営業
コンサルタント



収集・運搬

全国を掛け巡る
回収対応力
(各種車両保有)



中間処理

多品目の廃棄物へ
幅広い対応



リサイクル

廃棄物をリサイクルし、
燃料化・炭化・堆肥化



エネルギー

焼却時の熱エネルギーを
電気エネルギーに
変換して有効活用





経営理念

私たち人間の永続と繁栄と幸せのため
創造的思考をもって楽しく、真面目に、一所懸命行動し
地域にとってなくてはならない企業であり続けます。

代表メッセージ

三光株式会社は、企業理念の根幹たる「地域にとってなくてはならない」を創造し、今まで活動して参りました。近年、「環境」は世界の中心課題であり、SDGsを旗頭に持続可能な社会を構築するべく、活動が日本でも大きく広がってきております。弊社も、17の目標を正しく理解し、その一助となるべく、「楽しく」、「真面目に」、「一所懸命に」活動して参りたいと考えております。引き続き、ご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 三輪 昌輝

SANKO for SDGs

三光株式会社はSDGsに賛同し、常に挑戦し続けることを大切にしています。
その中でも先進的な取り組みを中心に、日々挑戦し続けています。



エネルギー管理

再生可能エネルギーの活用や、排熱の有効利用などの省エネ・創エネ活動に取り組んでいます。



工場排熱を活用した陸上養殖

廃棄物を焼却処理する際に発生する排熱を活用して陸上養殖を行っています。



Jクレジット認証

2017年～2019年にかけて1,100tのCO₂排出削減を達成し、Jクレジット認証を受けることができました。



RPF(固体燃料)のJISマーク取得

廃棄物をリサイクルして製造するRPFのJIS認定を取得。産業廃棄物業界で4社目、中国地方では初取得。



とっとりSDGs企業認証

2022年7月に認証企業となりました。鳥取県と共に更なるSDGsの取組を強化しています。



環境教育

地域の子どもたちへ向けた出前授業や、工場見学といった環境教育にも力を入れています。



「サンライズさんこう」の特例子会社認定

2019年に株式会社サンライズさんこうは当社の特例子会社として認定されました。



もったいないりゅーす

株式会社サンライズさんこうとの協働事業としてアクリルパーテーションの再利用に取り組んでいます。

地域貢献

地域にとってなくてはならない企業であり続けるために、みなさまから愛され、必要とされる企業の一員として、全社員で取り組む春・秋の環境ボランティアの他、各地域活動などへも積極的に参加しています。



The history of Sanko 成長への道のり

THE PATH TO GROWTH

1972年	9月	三光産業(株)設立 資本金300万円
1979年	9月	三光産業(株)より分離独立三光石油(株)設立 資本金500万円
1988年	6月	産業廃棄物焼却プラント完成
1990年	4月	東京営業部開設
1993年	4月	三光産業(株)と合併 社名を三光(株)とする
	5月	江島工場(再生処理と処分)操業開始
2002年	9月	潮見工場が竣工し、操業を開始
2003年	9月	江島工場内にRPF製造部門を新設
2005年	2月	昭和工場を廃タイヤリサイクル工場としてリニューアルオープン
	12月	ISO14001 認証取得
2007年	11月	江島工場焼却プラント完成
2011年	2月	RPF(固形燃料)がJIS認証を受ける
2013年	4月	(株)ウェストバイオマス 操業開始
	8月	低濃度PCB無害化処理の用に供する施設認定
	10月	低濃度PCB無害化処理を開始
2014年	10月	沖縄出張所を開設
2015年	7月	三光エナジーサービス(株)を新設分割により設立
	10月	ODAによりインド共和国コチ市のコンポスト事業調査を行う
	11月	(株)エイチエックが、三光グループの一員になる
2016年	7月	(株)ウエストバイオマスを吸収合併
2017年	5月	(有)湯浅建材(現(株)コーケン)が三光グループの一員になる
2018年	4月	三光ホールディングス(株)に株式移転
	7月	SDGs(持続可能な開発目標)の趣旨に賛同し、今後会社として取り組むことを宣言
2019年	6月	「(株)サンライズさんこう」が当社の特例子会社として認定される
2020年	2月	江島工場バイナリー発電開始
	3月	江島工場太陽光発電開始
	5月	「緊急事態発生時・災害時における廃棄物処理に関する協定」の締結を進める
	11月	とっとりSDGsパートナー登録
		江島工場に石膏ボード分離機を導入
2022年	4月	東日本営業部移転
		企業内クラブ活動支援制度(ハンドボール部、野球部)開始
	7月	「とっとりSDGs企業認証」の認証企業となる
	9月	三光グループ創立50周年を迎える
	11月	潮見工場にて有機溶剤蒸留事業開始
	12月	「第10回グッドライアワード」にて「10周年特別賞ロングライフ賞」を受賞
		「第1回 とっとりSDGsビジネスアワード」にて「特別賞」を受賞
	2月	江島工場に光学選別機を導入
2023年	3月	有機溶剤製品の蒸留再生に関するISO9001の認証を取得
	12月	山陰両県で初となる「フロン類破壊業者許可」を取得
2024年	8月	焼却発電施設10炉号 操業開始
		潮見工場・ウェストバイオマス工場を「潮見コンビナート」へ統称変更
2025年	1月	境港市及び株式会社SC鳥取と弊社間で「公園等の芝生化に関する連携協定」を締結
	3月	経済産業省「健康経営優良法人2025(中小規模法人部門)」として認定
		「下水汚泥由来のバイオ炭を農地利用したCO ₂ 削減プロジェクト」において、J-Creditの認証を取得
	6月	「緊急事態発生時における廃棄物処理に関する協定」を鹿児島県曾於市と締結
		(2025年6月時点:地方公共団体併せて28団体と締結)



1980年頃



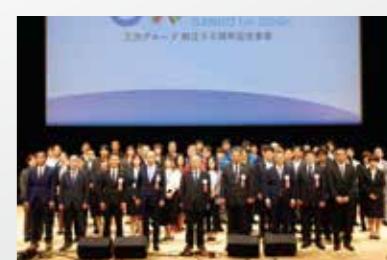
1988年



2015年



2019年



2022年